
たんたん(短)

あやこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たんたん（短）

【Nコード】

N4013J

【作者名】

あやこ

【あらすじ】

淡淡とすすむ 短いがたくさん 200712

きのうのえがおはきょうのなみだ

きょうのなみだはあしたのうみ、あしたのうみはいつかのうちゅう

ほら感じるだろうぼくらは共鳴しているって

ああきみよ

おねがいだから消えないで
おねがいだから消さないで

せかいの終わりへぜひぼくと
みらいの破滅はぜひきみと

まわりがどんなに暗くても

ただきみの名を
ぼくは呼ぶのだ

せかいの終わりはきみと二人で

影

きみがすきだ！

かつてぼくの前にいた少年は 少女にこう言ったのです

あらかみさまは冗談がお上手ねと 少女は返しました

ふふと笑って少女は別れを告げました 夕刻を知らせる鐘が鳴りました

後ろにいたぼくは何も出来ずに、ただのにんげんに戻ったかみさまを、終わりまで見届けてやりました

その手をにぎりしめて（上のつづき

彼女は目を閉じた

見知らぬ人にしあわせを、丸い地球に潤いを、すれ違う人に御加護をと

隣のあなたにはなにもない。

なぜなら私はあなたをよく知っているから。

きらきらひかる海に飛び込んで死んだかみさま

私は神を殺しました

はじめての恋をする少年の影を奪いました

しかしお許してください 私は素直に頷くことができなかったのです
許されなかったのです

私はどんな罰でも受けましょう いたいけな少女のうちに 私は私を失うのです

さよならは突然に

彼女を包む風は

今日の風
明日の風
あの日の風

また今年も、冬がやってくる。
同じようで違う風がきつく、頬を刺した。

ポケットに入る手を添えられるならば。
しかし意気地無しの僕の手は、一向に外気にあたろうとしない。

意気地無しの僕の足は、必死で家路に向かう。

意気地無しの僕はあの時から、一步も進むことができない。

強い風が、吹いた。

小さな両手に

いっぱい星屑を持って

少年は走る

まだ見ぬ朝が来るように、誰も知らぬ『太陽』を真っ先に見られるように

少年は走る

走る地が底無し沼と知らずに、視界が徐々に溶けていくことに気付かず

少年の空は星をなくし、星屑は危機を感じ逃げ出した

星屑は砂粒へと変わり、少年の指先を汚す

美しい金髪は泥に負け、細い足は走ることを諦め濁流に飲まれた

少年は土を食い闇を嚙り、その唇を黒く染めた

今までぼくらが空だと思って見上げていたのは、

空中に張られた『くろまく』に砂糖菓子を撒いただけのものだった。

ある日誰かが貴族の屋根に登って星に触れると、膜が破けて光がこぼれ、やがて溢れた。

そのとき人々は朝日を知った、人々は明日を知った。
世界は、太陽を知った。

くちびる

ただその額に女は口付けるのであった
神の使いは笑わぬ 抗わぬ

ただそのくちびるにいとおいさを覚える

女は緩く微笑む

かれは申し訳無さそうに女の額へ、同等でありながらも足らぬ口付けをする

神々の峰 聖なる場所 その端でふたりきり 舞い上がる煙 霞む
視界

動かぬ影

きずあと

元々無口な種族であつたし、食べることをしなかった
次第に口は退化し消えた
彼らが嘆くことはなかった、出来るはずもなかった
ただ少し濡れていたくちびるのあとをなぞる
ぬくもりだけが残るそこに『私』はすいとからまわる
また、沈黙の明日が来る

Though I can cry without you

I can't smile without you

塗り潰せ

過去を 過去を

きれいなぐんじょういろをだいたいいろで
きれいなだいたいいろをくろいろで
きれいなくろいろをそらいろで
きれいなそらいろをしろいろで

何層にもなつたそれは紛れも無く「私」の記憶

きつと何年も経つたら忘れるさ 絵の具が乾いたら忘れるさ

ただし乾きづらいだけ 濡れている間は 触らないでくださいね
でもだめと言われるとしたくなる
記憶についた汚い指紋は だれのもの？

人魚なんていない

そんな時代の私の存在はうやむや

でも発展した文明が、ある日私にヒトの足をくれた

その時、私は海底から見上げてはあこがれていた人間の女になれた
まっしろでふわふわしたスカートを履いて、空から私を見ていた人
に会いに行けるようになった

私と初めて会ったときに彼は言ったの
真っ黒の服をきてきて

ぼくはここからすの羽があっただと
私はここにしらうおの鰭があっただと返した
彼は笑った 私も笑った

（後書き）

たぶん、いろいろのものや ことをいめえじたものだと言憶しています

影 その手をにぎりしめて くちびる きずあと
以上の4つはpop・n musicというゲームからイメージを
つくりましたので、原作名を入れさせていただきました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4013j/>

たんたん(短)

2010年10月11日08時34分発行